# 最近の仏像ブームにおける
# ブーム発生要因の解明

田本　健

## 要　旨

本論文はここ 2～3 年でなぜ「仏像」が人気を博し、ブームとなったかを明らかにするものである。

ブームが起きる以前の主たるファン層としては、中高年が挙げられ、筆者自身「『仏像』は現役を退いた人々の趣味の一つ」として捉えていた。しかし、2007 年ごろから一般の（仏像とは直接関係のない）雑誌において、仏像の見方や歴史を追って解説するものなど多くの特集記事が組まれた。また、『週刊原寸大日本の仏像』（講談社）や『週刊仏教新発見』（朝日新聞社）などの「仏像専門誌」が創刊され始めたのもこの時期からである。さらにタレントのみうらじゅんや、はなどの仏像に造詣の深い有名人が、エッセーや紀行文などを出版し、ファンのすそ野を広げたのもこの時期からであり、仏像ブームが加速していく。そして、TV などのメディアで取り上げられ、「（中高年の）趣味」から「（若者を巻き込む）ブーム」へと変貌させるきっかけとなったのが東京国立博物館で開催された「国宝　阿修羅展」（2009 年 3 月 31 日～2009 年 6 月 7 日）である。京都総合経済研究所（2009）によると開催期間中、中高年はもちろん、一見仏像とは無縁に見える女子高生も会場に駆け付けるほどにぎわいを見せ、入場者数は 94 万 6172 人にのぼったという。初日から 1 万人が訪れ、連日 1 時間待ちの行列ができたという。

ではなぜ、ここにきて若者を含む幅広い世代に注目される仏像ブームが生じたのか。本論文では全 6 章構成でこれを検証していく。第 1 章は本論文の導入であり、論文を作成するにあっての問題意識と各章の概要である。第 2 章では以前からの主たるファンであった「中高年」のファンについて述べていく。第 3 章では、90 年代前半から時系列を追って、「若者の仏像ブーム」の歴史を紹介していく。そして第 4 章では既存の言説の検証として、「心の病説」「景気悪化説」という 2 つの説をここ数年の仏像美術展入場者数」や「雑誌記事検索数」などと比べることで、相関関係の有無を調べていく。しかし、第 4 章で関係を調べた「心の病説」と「景気悪化説」の結果から、「心の病説」は「仏像ブーム」と相関関係がないことが分かり、「景気悪化説」は相関関係があるということが言えそうであるが、「景気が悪化するたびに仏像ブームが起きるのか」という疑問が浮上してきた。そこで第 5 章では、独自に調査する必要があると判断し、仏像ファンとなった動機を調査し、仏像ブーム発生の要因を探る。最後に第 5 章を踏まえた結論を第 6 章で述べる。